

NEWS RRM

[ニューズ] Regional Resource Management



城崎温泉街の大溪川

Information

夏のオープンキャンパス 2020

Information 01

地域資源マネジメント研究科の一般公開「夏のオープンキャンパス」を2020年7月12日(日)に開催します。オープンキャンパスでは研究科や入学試験の概要紹介、施設紹介などを行います。今回は新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大防止のため、webサービスを使用してオープンキャンパスを開催します。当研究科に興味のある方、受験を検討されている方のご参加をお待ちしております。

- 日時** 2020年7月12日(日) 13:45～16:15
- 場所** 兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス(豊岡市祥雲寺128番地)
- 参加方法** 7月7日(火)までにメールかFaxにて参加申し込みを行い、申込者にZoomアカウントを通知する。同時に、研究科資料を参加希望者宅へ郵送する。
- 内容** (1) 研究科、カリキュラム、入学試験についての説明
(2) 施設の紹介、大学院生による研究紹介
(3) 個別相談など

●令和2年度オープンキャンパスの予定

	開催日	個別面談実施期間
夏のオープンキャンパス	7/12(日)	7/7(火)～7/12(日)
秋のオープンキャンパス	10/18(日)	10/13(火)～10/18(日)
冬のオープンキャンパス	12/20(日)	12/15(火)～12/20(日)

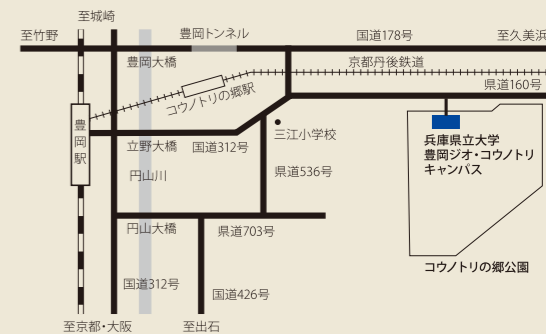
※新型コロナウイルスへの対応により今後の予定が変更になる場合があります。変更などの情報は地域資源マネジメント研究科のホームページに逐次更新していきますので、参加希望の方はご確認をよろしくお願いいたします。

[お問い合わせ] 各催しの詳細はウェブサイトをご覧ください。あるいはメール、電話にてお気軽にお問い合わせください。



兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 RRM

〒668-0814 豊岡市祥雲寺128
(兵庫県立コウノトリの郷公園内)
兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス
Tel. 0796-34-6079 Fax. 0796-22-5200
E-Mail: rrm@ofc.u-hyogo.ac.jp
<http://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/>



【写真提供】

- 川村 教一：城崎温泉街の大溪川
- 岡田 俊弘：1984年頃の霧ヶ滝
- 伊崎 実那：調査対象の水上ベア(J0097オスとJ0110メス)
- 伊藤 岳：晴れた日の鎌谷川 甲羅干しをするイシガメとアカミミガメ
- 小原 嘉文：カラミ石に囲まれた墓地(来迎寺)
- 成田 勝彦：自転車流入5分圏

豊岡の北と南の石垣景観 — 玄武洞溶岩と神鍋溶岩 —

教授 川村 教一

筆者の所属する大学院は豊岡市に位置しており、近くには玄武洞がある。玄武洞は火山岩である「玄武岩」の名前の由来となった地である。地元の小学校児童に玄武岩の特徴は何かと尋ねると、「六角形」と答える、と同僚の松原典孝博士から聞いた。

「りゅうもん あんさん 元氣かね」とは、中学校理科で火山岩の名前を覚えるときの語呂合わせの一つである。豊岡の子どもたちは、玄武岩の名前ばかりか溶岩が冷えるときにできた割れ目(節理)のパターンまで知っているのかと感心していたが、どうやらそうではないらしい。山陰海岸ジオパークのマスケットキャラクター「玄武さん」の角張った顔の形から、玄武岩は六角形だと考えているのだろうか。そうすると、豊岡市の南部、日高町の児童に玄武岩のことを尋ねると、何と答えるのだろうか。やはり「六角形」なのだろうか。

玄武洞周辺の地区では、石材としての玄武岩が良く目に入る。というのは、しばしば氾濫する円山川の洪水流から自宅敷地を守るための石垣を玄武岩で組み上げたり、庭に玄武岩を埋め込んで敷石にしたりして、景観に関する重要な構成要素となっているからである。採石場だったところの玄武洞から、六角形に割り取った石材を多用していることが特徴的な景観をもたらしている。城崎温泉街の中心を流れる大溪川の護岸も玄武岩製である。

ところで先に日高町のことに触れたのは、ここにある神鍋山も玄武岩で構成されているからである。玄武洞溶岩が約百六十万年

前にできたのに対し、こちらは約二万五千年前に噴火した近畿地方で最も新しい火山である。神鍋山から稲葉川沿いに円山川と合流するJR江原駅付近まで流れ出たマグマが冷えたかたまり、玄武岩となった。こちらの溶岩では、玄武洞とちがい六角形の割れ目は見られないが、代わりにマグマ中にできた気泡の跡が岩石の中に多数見られる。神鍋溶岩も石材として地元で活用されてきた。そのことを実感したのは、豊岡市内にある神社の石材調査をしていたことである。市中心部から南下して日高町内の神社まで来ると、社殿がなぜだかどっしりとしている印象を受けた。しばらくして気がついた。お社の土台が黒っぽい玄武岩の石垣できているから、重厚な雰囲気醸し出すのであった。

円山川は、古来、豊岡盆地内で氾濫を繰り返してきた。洪水に流されまいと民家の石垣は強固な玄武岩で固められていることは先に述べたとおりである。日高町内の神社の社殿もまた同様であった。そして、こちらの玄武岩には多数の穴が空いている。そう、神鍋溶岩であった。城崎温泉街の川沿いの護岸は布積みであるのに対し、日高のある神社の石垣は乱積みである。玄武岩の柱状節理の有無が石垣の技法の違いとなり、景観の構成要素の違いを生み出している。

但馬地方にはほかにも玄武岩の産地がある。皆さんの土地では玄武岩がどのように使われているのだろうか。ぜひお邪魔して、一緒に議論してみたいものである。

